

お茶大での幸せだった一学期

チョ・スビン(韓国・高麗大学)

期待と不安を持って始めたお茶大での一学期が終わりました。今まで憧れてきた日本での留学生活をすることになって嬉しかったけど、生まれて初めて家族と離れて一人暮らしをすることが心配になりました。幸いに周りの方たちが助けてくださったおかげで、日本での生活にすぐに慣れて充実した一学期を過ごせたと思っています。

この一学期を振り返ってみると、留学生授業を通じて様々な経験をしたことが印象に残っています。例えば、日本のキャリアについて勉強している留学生として新聞に写真が掲載されたことや、ヒューマンライブラリーを通じてマイノリティーの方の話を聞いた経験などがあります。特に、付属小学校の児童たちと交流したのは本当に楽しかったので、個人的に付属中学校の生徒との交流にも参加しました。付属学校との連携を活発に行っているお茶大に留学したためにできた経験だと考えています。

一方、日本人学生と一緒に取る専攻授業は私にはチャレンジでした。JLPTのレベルはN1ですが、資格の勉強と現実は違いました。諦めたい瞬間もありましたが、チューターさんや留学生相談室など留学生がサポートを受けられるところが多かったので、無事に一学期を終えることができました。まだ日本語が下手ですが、最初の時と比べてみると、上達したと感じています。

学校の休みには京都・大阪と静岡に旅行をしました。東京とは雰囲気が違って、特に、銀閣寺の美しい紅葉と静岡で見た富士山は忘れないと思います。しかし、最も忘れられないのはお茶大で出会った大切な絆だと考えます。留学生の友達が人見知りな私に声をかけてくれて、一緒に食事をしたり、遊んだりした思い出は永遠に記憶に残ると思います。

私には楽しくて幸せだった一学期でした。お茶大に留学して本当によかったと思っています。留学経験を基により良い人になりたいです。

